

## 2019 年度定時評議員会議事録

1. 日 時：2019 年 6 月 15 日（土） 11：00～14：00
2. 場 所：東京夢の島マリーナ 2 階会議室
3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

秋田県セーリング連盟：岡崎真一郎、外洋津軽海峡：荒山雅仁、茨城県セーリング連盟：中村孝一、栃木県ヨット連盟：森谷滋光、千葉県セーリング連盟：伊藤亮一、東京都ヨット連盟：落合光博、神奈川県セーリング連盟：平野豊、山梨県セーリング連盟：羽田定造、新潟県セーリング連盟：細井房明、外洋東京湾：松浦孝志、外洋三崎：鈴木一行、外洋三浦：庄野栄一、外洋湘南：新井五一、葉山マリーナヨットクラブ：村松哲太郎、愛知県ヨット連盟：岡田彰、三重県ヨット連盟：原田佳幸、外洋東海：川合紀行、石川県セーリング連盟：石倉喜八郎、福井県セーリング連盟：鈴木規之、奈良県セーリング連盟：森谷大悟、和歌山県セーリング連盟：山口慶一、外洋内海：山岡閃、NPO 岡山県セーリング連盟：岩崎裕児、(社) 山口県セーリング連盟：小泉周三、外洋西内海：山田孝治、香川県ヨット連盟：九富潤一郎、熊本県セーリング連盟：岡村哲夫、宮崎県セーリング連盟：樋口ゆみか、鹿児島県セーリング連盟：榮樂洋光、外洋玄海：沼田浩行、全日本学生ヨット連盟：杉山嘉尚、(財) 全国高等学校体育連盟ヨット専門部：古屋勇人、日本視覚障害者セーリング協会：秋山淳、日本レーザークラス協会：加藤重雄、日本ウィンドサーフィン連盟：加藤学

以上、出席 35 名

### その他出席者（順不同・敬称略）：

会長：河野博文、副会長：中川千鶴子、馬場益弘、中澤信夫、専務理事：川北達也、常務理事：坂谷定生、富田三和子、理事：平松隆、安田大助、尾形依子、作田智恵子、橘田佳音利、長塚奉司、高橋祐司、大西治夫、黒川重男、磯部君江、岡村勝美、菊池邦仁、新田肇、大島茂樹、中村和哉、宇都光伸、斎藤渉、関一人、高間信行、監事：児玉萬平、上野保、参与：小山泰彦、望月宣武、委員会委員長：安藤淳総務委員長、増田開ルール委員長、森信和国体委員長、金子純代キールボート強化委員長、大村雅一事務局長

以上、その他出席 35 名

### 4. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 51 名中、出席 35 名で、定款第 19 条に基づき定足数を満たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

定款 18 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は松浦孝志評議員に決定し、2019 年度定時評議員会開催の宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、榮樂洋光、秋山淳の両評議員が任命され、承認された。

(河野会長挨拶)

レース活動も本格的な時期を迎え、7 月にはレーザーワールド、8 月 470 ワールドならびにテストイベント、SWC 江の島大会が開催される。また、JOC スポーツ賞の表彰式に参加した際に、吉田・吉岡組から東京大会では金メダルと取るとの力強いコメントに過去にない意欲を感じた。重要な議題につき、審議いただきたいとの挨拶があった。

## 5. 議案

### 1) 平成 30 年度事業報告 (案)

川北専務理事から資料に基づき、平成 30 年度事業報告 (案) について説明があった。平成 30 年度は、世界選手権、アジア大会で金メダルを獲得、またテストイベントを兼ねたワールドカップシリーズ江の島大会を成功させるなど 2020 年オリンピック開催国のセーリング競技に弾みをつけた年であった。役員改選で理事・監事に女性割合が拡大するとともに、加盟団体との情報交換会を開催するなど、女性の活躍、ジェンダーイコールへの取り組みが進んだ。また、加山雄三さんとタイアップした「海 その愛基金 海洋環境クリーンプロジェクト」を開始するなど、セーリングからの地球環境持続可能性活動を進めた。

#### 1) セーリングスポーツの発展振興と安全確保

テストイベントを兼ねたワールドカップシリーズ江の島大会、ハンザ級世界選手権などを開催し、成功裏に終了した。国際大会開催にあわせオリンピックレース運営担当者の人材確保と育成を促進した。FISU ユニバーシティ・ワールド、ユースマッチ、ユースワールド、ユースオリンピックへの派遣、2019 年ユニバーシアードへの派遣準備などユース世代の育成、支援を行った。沖縄東海レース、2024 年オリンピックの外洋レースの準備、ジャパンカップ委員会設置など大型艇・外洋艇レースの振興を図った。ライフジャケットの義務化とレースでの例外措置の周知を進めた。またセーリングの安全について海上保安庁との情報交換会、ヨット体験会を行った。アンチ・ドーピング活動を促進するため、医事科学委員会にドーピング小委員会を設置した。

#### 2) 広く普及啓発し、セーリング界の裾野を広げる

子供等を対象に全国 11 か所で、「海と日本プロジェクト」を活用した普及啓発イベントを開催し、6,000 人をを超える参加があった。また、インターナショナルボートショーで、セーリング界関係者と共同で子供からのセーリングを勧めるブース展開を行い、体験乗

船などにつなげる普及啓発を行った。オリンピック応援のフラッグリレーが、本州日本海側、九州、沖縄・先島諸島等を回り、各地でのオリンピックへ向けての盛り上げとセーリングの普及振興が進めた。チャイルドルームをワールドも含む 5 大会で実施し、女性セーラーの大会参加の促進と観戦者の便宜を図った。セーリング界の外のファンを開拓するために、マスコミへの情報提供や、ボートショー始め様々な機会にセーリングの PR を行った。

### 3) セーリング界を支える連盟組織の強化

役員改選で女性割合の拡大が進んだ。加盟団体との女性セーリング界の現状や課題についての情報交換会を開催した。JSAF ホームページの更なる充実を図るなど一般広報の強化に努めた。ボートショー、海と日本プロジェクト、海 その愛基金海洋環境クリーンプロジェクト対応など委員会横断的な活動を活発的に進めたとの発言があった。

平成 30 年度事業報告は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

## 2) 平成 30 年度決算 (案)

斎藤会計担当理事から資料に基づき、平成 30 年度決算 (案) について説明があった。

事業活動収入合計は、755,424 千円となり予算比で 46,912 千円増加した。2 月の第 3 次補正予算比対比、オリンピック強化委員会関係の補助金収入・選手負担金収入等が予算比 49,591 千円増加したこと、東京五輪準備委員会の日の丸セーラーズ協賛金収入が予算比 25,464 千円増加したことなどが主因です。このうちメンバー会費収入・賛助会費収入は予算を下回り、前年対比でも▲1,195 千円ほど減少しています。事業活動支出合計は 755,138 千円 (予算比+12,633 千円) を計上したが、東京五輪準備委員会、オリ強委員会、障がい者委員会、キールボート委員会以外は、概ね 2 次補正予算で想定した通り、または実質ベースで、支出が予算を多少下回って着地した。

東京五輪準備委員会は、セーリングワールドカップ江の島大会関連の費用負担等により支出予算を上回る結果となった。オリンピック強化委員会は、2 次補正予算比では収支ともに増加し、収支差額は 14,220 千円の黒字となりました。選手強化事業においては、2018 年はセーリングワールドチャンピオンシップ (オーフス大会) やアジア大会など大きなイベントが多く、予算的に厳しい状況が続いた年でしたが、3 月 20 日に JOC 選手強化交付金を想定以上に受領できたなどの理由で、プラスを確保した。投資活動収支は、固定資産の取得の他、従来と同様の積立ならびに取り崩しを行った結果、総合計の当期収支差額は 11,140 千円の黒字となった。次期繰越収支差額は、前期繰越収支差額 97,090 千円にこの収支差額が加算され、108,230 千円となった。

事業別 (委員会別) 収支は、①管理費・その他は、メンバー会費収入が予算を下回ったものの、海その愛基金寄付金 5,000 千円を委員会正式発足前であったことを理由に暫定的に当該項目に計上したこと、オリ強委員会・東京五輪準備委員会・外洋常任委員会等か

ら消費税・事務局負担金相当額を繰入したこと、支出では、業務量の増加に伴い人件費や交通費等の不可避的な増加はあったものの、その他費用項目の支出抑制に努めたこと、事務所移転関連支出 4,600 千円が翌期に繰り越されたことにより、SWC 蒲郡大会における追加関連支出 16,312 千円の精算後も、最終的に黒字が確保された。一般事業の各委員会は、全般的にはほぼ予算通りで着地した委員会が多く、トータルでは問題のない範囲で収まった。一方、一部の委員会では補正予算が計上されないまま、予算オーバーする事態が発生しているため、期中の各委員会による項目別支出管理の徹底や資産取得時を含めた補正予算計上の徹底が必要である。東京オリンピック準備委員会は、協賛金収入が予算比 25,464 千円増となり、収入合計 121,510 千円、支出は江の島大会費用負担等により 149,000 千円で収支差額▲27,490 千円となった。このため東京五輪準備特別資産 11,228 千円の全額ならびに特定費用準備金積立資産の一部、15,150 千円、合計 26,378 千円を取崩した。オリンピック強化委員会収入は、予算比 49,591 千円増の 278,953 千円、支出は同 35,556 千円増の 264,733 千円、委員会当期収支差額は 14,220 千円となった。年度後半には遠征補助などが十分にできない状況もあったが、年度最後に JOC 選手強化交付金支給や補助金予算の上乗せがあり、黒字を確保できた。オリ強委員会ではここ数年、補助金の増加に伴って年度末に資金繰りの問題が発生し、一般財源や他委員会から資金を 3 千万円程度融通して凌いでいる。5 月末に補助金の精算払金を受領することにより解消するが、一つの大きな問題である。なお、当年度まではジュニアユースアカデミー委員会とドーピング検査事業の収支もオリ強委員会に含めている。投資活動収支および財務活動収支は、固定資産として SWC 蒲郡での RIB ボート等やオリ強用の風速計ソフトウェアを取得した他、退職給与積立支出 976 千円、オリ強積立支出 2,800 千円などを支出計上した。一方、東京五輪準備積立や特定費用準備金積立を一部取崩して収入計上したことで、合計収支差額は 10,854 千円プラスとなった。収益事業は、カレンダー・業務用品販売収入 1,776 千円、製作費・仕入費等支出 1,148 千円、収支差額 628 千円を計上した。この結果、総合計の当期収支差額は 11,140 千円の黒字となった。

貸借対照表は、資産は現預金が 16,440 千円増加の 27,589 千円、未収金（殆どが国の助成金の精算払分）が 4,940 千円増加の 117,081 千円、その他固定資産が 6,621 千円増加の 12,796 千円となり、東京五輪準備特別積立資産の取り崩しや特定費用準備金積立資産の減少▲15,150 千円が生じたものの、最終的に 3,457 千円増加の 327,488 千円となった。負債は、協賛金収入の次年度以降分一括收受等により前受金が 8,476 千円増加したことを主因に 8,115 千円増加、58,673 千円となった。正味財産は、東京五輪関連の費用性支出増加により前年比▲4,658 千円ほど減少し、268,815 千円となった。内訳として指定正味財産 10,652 千円、一般正味財産 258,163 千円である。また、当連盟は「公益会計」「収益会計」「法人会計」の三つに会計を区分し、収支案分している。会費収入 50%を公益会計に計上、50%を法人会計に計上、管理費支出 73%を公益会計、2%を収益会計、25%を法人会計に計上。当年度決算の収支差額は、公益会計 4,223 千円、収益会計 45 千

円、法人会計 6,872 千円の黒字、前期繰越収支差額加算した次期繰越収支差額は、公益会計 8,457 千円、収益会計 1,917 千円、法人会計 97,856 千円となった。公益会計は収支相償が基本となりますが、この観点から現状について特に問題ないと判断できるとの発言があった。

上野監事から、平成 30 年度決算報告の監査報告があった。事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められない。計算書類及びその付属明細書並びに財団目録は、法人の財産及び損益の状況を適正に示しているものと認めるとの発言があった。

平成 30 年度決算報告書は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

### 3) 定款変更（事務所移転）

安藤総務委員長から資料に基づき、新会館移転に伴う定款改訂の件について説明があった。

今般の岸記念体育会館の取り壊しに伴い、JSAF 事務局は新会館「JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE」に移転することになったため、定款第 2 条 1 項に規定する「主たる事務所の住所地」を、移転予定日 6 月 20 日付けで改訂する。改訂案は、「本連盟は、主たる事務所を東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号に置く。」とし、定款改訂日付を、2019 年 6 月 20 日付（新会館への移転予定日）とする旨、発言があった。

定款変更は、棄権 0、反対 0、賛成 34 名、評議員数 51 名の 2/3 以上の賛成と認められ、承認された。

## 6. 報告事項

### 4) 茨城国体大会ご挨拶

「いきいき茨城ゆめ国体2019」阿見町実行委員会、山崎貴之様からセーリング競技会の資料に基づき、茨城ゆめ国体開催について挨拶があった。

中村裕一様から、準備状況について報告があった。2019年9月29日～10月2日、阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場において開催する。国体開催期間中は、選手ファーストで取り組んでいきたい。また、仮設テント内では映像中継放送やトラッキングシステムによるレース状況を実況するので、選手各位ならびに連盟関係者のご協力お願いしたいとの発言があった。

## 5) 評議員からの質疑・意見

鈴木一行評議員から資料に基づき、会計処理に関する意見があった。

昨年の評議員会でも会計処理に関する意見を述べたが、オリンピックを来年に控え、重ねて意見を述べる。

2019年度事業計画では、広範囲かつ多種多様な事業が予定されており、民間企業が受注すれば5倍以上の予算規模である。特に、オリンピック関連事業は、本予算で実施できるのはボランティア活動に依存大と推察します。しかし、給与・謝金等の発生しない、少ない対価の当事者・責任者は、たいへんな業務をと意識では、会計処理に対する認識は甘くなる可能性がある。一方、JSAFは公益財団法人であり、公益性の観点から民間以上に透明性のある会計処理を求められる。特にオリンピックを控えたこの時期、マスメディアは金銭に絡むスキャンダルを探している。佐賀県で文春砲が出てしまった以上、より一層の注意が必要である。今こそ、ボランティアも含めた公益財団法人を構成する全ての関係者において、モラル・倫理観の向上を徹底し、適正な会計処理を行うことが急務と考えます。また、加盟団体など任意団体においても同様な措置を講ずるべきである。具体的注意点は、①事業費の目的外流用の範囲、②証票（領収書等）の整理、③消費税の処理、④所得税に対する源泉徴収処理、⑤社会保険への対応、⑥輸入関税および消費税の処理、⑦その他私的流用が疑われないような書類の整備が挙げられる。

理事・評議員・委員長のみならず、ボランティアで尽力されているすべての方のためにも、JSAFがスキャンダルに巻き込まれ、選手のレースに影響を及ぼすことのないように再度、会計処理への意識改革が必要であるとの発言があった。

川北専務理事から、本年度予算増を受けて、支払制度などなお一層の透明性を担保するための内部統制を図っている。佐賀県問題は、まだ調査段階だが、連盟としてはホームページにお詫びのメッセージを発信し、活動しているセーラーに迷惑がかからないように努めていくとの発言があった。

児玉監事から、外部監査法人からは昨年度から指摘されているが、事務量が増加しているがスタッフが少ないことから事務局機能の向上を求められている。また、昨年度に渋谷税務署の源泉所得税の税務調査については、加盟団体へ指導することが必要であるとの発言があった。

望月参与から、渋谷税務署の源泉所得税漏れについては、問題がなかったわけではないが、様々な状況を鑑みて課税としない結果となったが、今後は同様の指摘を受けないように運用方法を考えないといけないとの発言があった。

## 6) 評議員からの報告

村松哲太郎評議員から、オリンピックレース海面について特定海面に指定するならば、観戦艇やレース海面を横断するような航行はできないのか質問があった。

河野会長から、船舶免許ならびに海外船舶船検については特例の認可をいただいている。観戦艇や周辺ボートについては、オリンピック期間中は制限される。特定海面として指定されているかは不明であるとの発言があった。

## 7) 委員会・事務局報告

### (1) 専務理事からの報告

川北専務理事から資料に基づき、JSAF ビジョン検討状況ならびに海その愛基金・環境クリーンプロジェクト推進委員会の報告があった。

昨年2月23日理事会で、JSAF ビジョンの策定とビジョン検討会の設置が承認され、専務および常務理事にマーケティング知見を持ったメンバーをコアとして、JSAF 専門委員会、加盟団体・特別加盟団体から検討メンバーを募り、約3カ月半かけて、先行している他競技団体のビジョン検討の事例や専門委員会や加盟する団体の課題を整理した。今回のたたき台は、「Our Vision (セーリングをもっと楽しく)」「Our Vision (もっと簡単に・もっと気軽に・もっと高みへ)」「Our Goal (子供にも体験させたい・関わり続けたい・学びたい、応援したい)」「Why」の4構成で作成した。今後は、たたき台を専門委員会や加盟する団体の検討メンバーに送付し、課題との整合が十分されているのか、過不足がないのかを検討し、9月理事会で協議するとの発言があった。

また、「海 その愛基金 海洋環境クリーンプロジェクト推進委員会」の活動について、4月13日、グリーンルーム 由比ガ浜ビーチクリーン&Fes を実施、約300名がビーチでビニールなどのプラスチック類のゴミを回収した。4月20日~5月6日には、小笠原においてマイクロプラスチック含有海水摂取を実施した。小笠原レース参加3艇が回航時に、太平洋上でマイクロプラスチック採取した。また、小笠原の中・高校全校生ならびに一般172名が参加した海洋環境教室を実施し、加山雄三委員長のメッセージ放映し、海洋環境保全の意識を訴求した。今後は、6月22~23日にジュニアユースアカデミー葉山、7~10月にかけて神奈川県小学校訪問授業、7月13~14日にグリーンルーム 代々木公園 OCEAN PEOPLEなどを予定しているとの発言があった。

### (2) 総務委員会報告

安藤総務委員長から資料に基づき、情報セキュリティ対応について報告があった。

情報セキュリティ対応について、JSAF プロジェクトチームならびに内閣官房サイバーセキュリティセンター (NISC) からの指導をいただき、施策に取り組んでいる。①JSAF サーバーならびに JSAF サーバー利用 JSAF 加盟団体管理者のアクセスの制限の強化、②JSAF ネット環境のリスク対応強化整備、現在分散しているサーバー (オリ強委員会サーバー・日の丸セーラーズ) を JSAF サーバーに移管を検討している。③その他に、NISC 主催の勉強会セミナーに参加し、情報収集を図っている。

また、スポーツ団体ガバナンスコードの制定については、スポーツ庁が2018年12月

に策定した「スポーツ・インテグリティの確保に向けたアクションプラン」に基づき、スポーツ団体ガバナンスコードを6月中に制定する見込み。スポーツ団体が順守すべき原則・規範を明らかにした上で、各スポーツ団体が自律的にその遵守の為の対応方策を講じ、その状況を自ら説明し公表することにより、よりよいガバナンス確立を目指すものである。各種の公的支援の対象となっている中央競技団体はその業務運営が大きな社会的影響力を有するとともに、国民・社会に対しても適切な説明責任を果たしていくことが求められる公共性の高い団体として、特に高いレベルのガバナンス確保が求められる。日本スポーツ協会（JSPO）、日本オリンピック委員会（JOC）、日本障がい者スポーツ協会（JPSA）取組事項として、中央競技団体に対して、「スポーツ団体ガバナンスコード」への適合性審査を4年ごとに実施し、その結果を公表する。スポーツ団体ガバナンスコード制定へ向けたJSAFとしてのパブリックコメント提出（2019年5月7日）では、①外部理事の目標割合（25%以上）の設定、②女性理事の目標割合（40%以上）の設定、③理事が原則として10年を超えて在任することがないように再任回数の上限を設けるなどについて緩和を求めたとの発言があった。

### **(3) オリンピック強化委員会報告**

斎藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、東京オリンピック日本代表選手選考の経過報告があった。

東京オリンピック代表選考が始まっている。各種目の選考指定大会（複数の国際大会）の結果で選考得点が与えられ、合計得点の最上位が代表として選出される。例外として、ワールドで3位以内に入った場合はその選手が代表に選出されるが、可能性として、7月のレーザーワールド、レーザーラジアルワールド、8月の470ワールドで日本選手が3位以内に入った場合は、その時点で選考が終了になる。また、ワールドで3位以内に入らない場合も、470級男女は9月1日が最終日のセーリングワールドカップ江の島大会で代表選考が終了する。その後も、他の種目では順次選考大会が予定されているとの発言があった。

### **(4) 国体委員会報告**

森国体委員長から資料に基づき、国体委員会報告があった。

第74回茨城国体参加資格証明書送付期限は、8月14日（水）、参加申込書（参加申込システム）申込期限は、8月21日（水）である。また、競技団体が認定した世界選手権大会に出場する選手やトップアスリート参加資格特例措置対象者は、都道府県予選会を免除することができる。ドーピング検査では大会期間中「ドーピング防止ガイドブック」の携帯を義務付けられているとの発言があった。

### **(5) ルール委員会報告**

増田ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

①RRS 電子版 (1,000 円税別) の販売チャンネルとして利用していた DL market 社のサービス停止により中断していた電子書籍の販売を再開した。購入希望者は、JSAF ルール委員会メールアドレスに連絡していただきたい。②大会へのジャッジ・アンパイアの派遣は、スキル共有によるジャッジ・アンパイアの養成と大会の質の向上を目的に行われている。新たにアンパイア制のレース (チームレース、マッチレース、メダルレースなど) を実施される場合は、希望に応じてチーフアンパイアを派遣 (派遣費用補助) するので、ルール委員会にご相談いただきたい。③上告否認する場合には、プロテスト委員会にはルール委員会が承認した 1 名を含む A 級ジャッジ 5 名が必要になる (2019 年の大会)。2020 年 1 月以降の大会では、上告否認する場合のプロテスト委員会の構成要件が変更となる。また、メダルレースなどのアンパイア制フリートレースのための付属文書 Q (アデンダム Q) などは、変更が認められていない競技規則の変更を含むため、使用にあたっては JSAF の事前の承認が必要になるとの発言があった。

#### (6) レディース委員会報告

富田レディース委員長から資料に基づき、レディース委員会報告があった。

①2019 年度チャイルドルーム開設は、7 大会設置を計画している。準備や受付業務はレディース委員が行うが、保育士・幼稚園教諭の免許を所有している方々は開催場所で募集する。②第 2 回情報交換会を開催する。第 1 回加盟・特別加盟団体の女性セーラー・指導者・運営者による情報交換会で意見がでた現状と課題について、今後の展望を話し合う予定である。③東京 2020 に向けて、チャイルドルームの設置を目標に、他の競技団体 (柔道・バレーボール等) にも働きかけ情報交換しながら進めていくとの発言があった。

#### (7) キールボート強化委員会報告

金子キールボート強化委員長から資料に基づき、キールボート強化委員会活動報告があった。

①3 月 1~3 日、愛知県蒲郡で開催された「セイル・オン 第 8 回 JYMA 選抜大学対抗 & U25 ヨットマッチレース」は、15 チームが参加し、盛大に開催された。優勝は、ドリームチーム (日本大、早稲田大、慶応大) となった。本大会は、2019 年 7 月イタリア・ナポリで開催されるユニバーシアード日本選手団セーリング競技の代表選手候補の選考を兼ねており、3 位に入賞した Kudo (東京大) が代表候補に内定した。②ニューヨークヨットクラブ主催の「ROLEX2019NYC INVITATIONAL CUP」の参加チームは、選考基準を満たした ESMEERALDA チーム (植松真オーナー) に決定した。③4 月 9~14 日まで米国カリフォルニア州のセントフランシス・ヨットクラブで開催されたマッチレース国別対抗戦「World Sailing 2019 Nations Cup Grand Final」に月光チームが日本代表としてオープンクラスに出場した。オープンクラスは 9 カ国出場、ハイレベルな戦いだ

ったため結果は 9 位となった。④9 月 25～28 日にイギリス・カウズで開催予定の「RYS Global Team Racing Regatta」(2on2 のキールボート・チームレース)に JSAF 代表チームとして参加できるクルーを募集するとの発言があった。

## (8) ODC 計測委員会報告

中村 ODC 計測委員長から、ODC 計測委員会活動報告があった。

本年度は、公式計測員更新講習会を開催予定である。また、公式計測委員の管理方法ならびに技術維持について、アンケート調査を実施するとの発言があった。

## (9) その他委員会

### 外洋艇推進グループ報告

坂谷常務理事から資料に基づき、外洋艇推進グループについて報告があった。

①5 月 1 日スタートの小笠原レースは、参加艇 10 艇で成功裏に終了した。島民ならびに中学生の体験セーリングを実施した。また、回航中にマイクロプラスチックを採取し、東京海洋大と共同で島民に説明した。第 60 回パールレースは、2019 年～2020 年にかけてフィニッシュ海面である江の島が使用できないことから、伊東港をフィニッシュにした。「2019-2020 日本一パラオ親善ヨットレース」は、12 月 29 日、横浜港ベイブリッジをスタートして、約 2000 マイルのパラオ共和国コロール島を目指す。パラオ共和国との外交関係樹立 25 周年、パラオ共和国独立 25 周年、横浜港回航 160 周年を記念する大会である。ヨットレースに関しては、GPS トラッキングシステムを採用、併せて帆船「みらいえ」がレース海域を伴走する。また、OP ディンギーを寄贈し、横浜港で国際親善レースを開催する他、海洋中に浮遊しているマイクロプラスチックを採取して、環境に影響を与える研究の一助を担う。②マイクロプラスチック調査については、「海 その愛基金 海洋環境クリーンプロジェクト推進委員会」の活動の一助を担っている。将来的には環境委員会との共同作業としたい。③日本一周フラッグリレーは、オリンピック・パラリンピック組織委員会から参画プロジェクトとして認定され、今年で 3 年目になる。現在、九州一周は完了し、北海道一周を予定している。昨年に山形県酒田から新潟、富山へ向かった日本海ルートは、今年は鳥取、島根へと繋いでいく予定である。フラッグ引継式では、地元市民の皆さんや県知事・市町村長さん方も参加していただき、2020 年東京オリンピックの成功に向けての盛り上がり、セーリングの普及・啓発を図っている。④ 2024 年パリ・オリンピックでキールボートが採用されたことを受けて、「オリンピック外洋小委員会」を設置して、2020 年ワールド公示がリリースされた段階で、選考基準ならびに選考方法について考慮するとの発言があった。

## (10) 事務局報告

大村事務局長から資料に基づき、JSAF 事務局の新会館 (JAPAN SPORT OLYMPIC

SQUARE) への移転について報告があった。

移転日を6月20日(木)予定にしているが、電話機も含む荷物の移送他の関係上、6月19日(水)で岸記念体育会館でのすべての業務を停止、6月20日(木)は移転完了まで終日業務停止となる。6月21日(金)から、新会館 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE で通常業務を開始する。また、新会館への入館方法について説明があった。

以上、2019年度定時評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2019年6月15日

会 長 河 野 博 文

議 長 松 浦 孝 志

議事録署名人 榮 樂 洋 光

議事録署名人 秋 山 淳